

武蔵野市政に参画し三期十二年  
行政サービス度NO1に輝いた武蔵野市政の一翼を担  
う者として、私は「常に市民の皆様と共に、自分で考  
え、責任ある立場で発言し、行動する」ことを議員活  
動の基本としてまいりました。

# 山下倫一議員活動報告書

平成十一年四月～平成十五年二月（第三期）

活動記録―市民と行動を共にして  
新しい仕組みづくりを前向きに取り組んでいる市民と共に  
行政評価／市役所活性化  
教育改革／環境対策／福祉対策  
行政サービス度全国1位／情報公開度ランキング2位  
共生の時代へ―地方自治が日本を創る  
私の政策／山下倫一のプロフィール

URL <http://www.jade.dti.ne.jp/~tmkz007/>

このホームページは「yahoo」の「山下倫一」の検索にてご覧になれます。  
ご意見・ご感想がございましたら、ご一報お願いいたします。

## 市民と行動を共にして—— 最近の行動から

今求められているのは、武蔵野らしさを生かした大胆な発想、きめ細かい施策！

そのために私は、市民の皆様と双方の交流がより必要と考え、平成十年にホームページを開設いたしました。

その「活動日誌」から山下倫一が、何を考え、どのように地域社会と取り組んでいるのか、一一読ください。

2002年9月3日

朝8時に三鷹駅前で豊科町に演奏旅行に出かける「天山会」の皆さんを見送る。「天山会」は、高齢者のバイオリン教室卒業生のグループで、60才を過ぎてから初めてバイオリンに触れた方もいる。今回は、豊科町のハモニカを弾んでいるグループと琴の会との合同演奏会が企画されている。午後から、今度の市政レポートが運び込まれる。宛名は、バーコードを入れないと市内特特という割引が適用の田が、50田に1になりはないと言われ、前回からタビシールにバーコードを打ちつけて

うにしているが、何となく、ダイレクトメールはくはなしてしまっ、お許しを。

9月11日

8時半よりムーバス4号路線の新しいバス停に協力してくださるDさんのお宅へ伺う。打ち合わせをした後、市長に面会。Dさんが、「地域の皆さんに喜んでもらえなから協力しましょう」と市長に言った言葉が心に残る。

9月17日

武蔵野市議会建設委員会、三井不動産を事情聴取へ！審議は午後一時から始まり、住民代表が陳情の趣旨と、経過の説明及び三井不動産と住民の今までの説明会がいか説明会の態をなしていないかを陳述。

次に質疑に入る。

①この土地がマンションの適地かどうか。  
市長：「このような袋地にしかも、4メートルの道路しか接していない場所にこのような規模のマンションが計画されるのは、私の市長20年の間でもほとんどない」

②JIS計画について

「合法だからといって周囲との調和、住民との調和のための話し合いをしなくてもいいというのではなし」

③この問題について市長の対応について

市長：「重大な関心を持ってこの案件を注目している。」

「包括的な調整権限が市長にはある」

「主査が三井不動産を代表すると言いつたら

ば委任状を持ってへんやつに窓口の担当者には指示をした」

「現在の段階は入り口である。しかし、入り口でしっかりとすべきことをしなければならぬ」「この入り口でしっかりとやらなくてはならないとの答弁は3、4回繰り返し繰り返し発言していただくことが印象的であった。」

また、市長は「市長のこのような姿勢を支えるのは住民の力であり、議会の力である」と述べたが、今後とも「議会と住民の連携」「住民が一致団結して当たる」ことが大切であるとのメッセージを受け取れた。

最後に、三井不動産の姿勢が分からないので、委員会に呼んだらどうかとの発言があり、建設委員会に呼び、今回の事情を聞くことと検討が必要とされた。マンション業者が呼ばれたのは初めてのことだ。

10月5日

10時より、五小運動会へ。暑いぐらいの良い天気であった。小学校の運動会は見ていると楽しい。保護者の方が我が子の出場種目になると一斉に立ち上がり、カメラやビデオで撮り始めるのも微笑ましい。夕方近く、五小PTA役員の方とお会いする。「今度は市民大運動会の仕事」のこと。ご苦労様です。

10月23日

午後、富士山の写真で有名な岡田紅陽展が開催されている吉祥寺美術館へ行く。武蔵野市から見えた「落日」(1969年)、5千円札の裏に使われている「湖畔の春」(1935年)等印象に残る作品が展示されていた。この美術館も2月の開館以来、企画展で90名/日ぐらいの来館者があるとのこと。場所がいいのか比較的順調に運営されているようである。一寸した時間で鑑賞できます。皆さんもどうぞ。

10月27日

爽やかな天気。プライングで行われた自然環境フォーラムへ。基調講演は、気仙沼湾で牡蠣

の養殖業を営む「牡蠣の森を慕う会」を結成し、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人」運動を進めている畠山重篤氏の講演。豊かな海を作るために、いかに広葉樹林の果たす役割が大切かをとつとつと語る姿に感動。子どもたちにも植林などを通じ、海と森の結びつきを体験学習させていることが。武蔵野市の子どもたちも現場に連れて行き体験させたいと思う。

10月30日

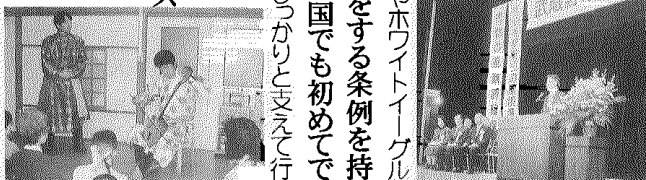
夜、ナイトハイクの打ち合わせ。ナイトハイクは一番寒い時期の真夜中、西久保「ミゼン」から多摩湖まで往復26kmを歩くという、普段ではできない体験を五中生にさせるために25年前から始まった地域主催の行事。以前は、五中の1年生はほとんど歩いたものでしたが、最近は歩く生徒が少なくなりそのまま継続するかどうかの話し合いだった。私は「このような時代だから必要であり、五中の生徒はもちろん、先生、PTA、地域の方々にもう一度この行事の目的、趣旨を理解してもらおう努力をする必要がある」と存続を主張。私は、これを踏まえて、明日五中の校長・教頭先生への

説明の役目をおおせつかった。

11月9日

武蔵野市市民安全大会へ出席。今年の6月議会で「武蔵野市生活安全条例」「つきまとい勧誘行為の防止及び路上宣伝行為等の適正化」に関する条例が制定され、具体的な今年度の活動方針を確認する大会が公会堂で開催された。近年、今まで考えられないような事件が発生する中、街の安全を守ることは最優先の課題の一つである。生活安全条例を制定する市町村は多いが、本市のブルーキャップやホワイトイグルのように実践的に運動をする条例を持つて活動をする市は全国でも初めてである。これからの活動をしっかりと支えていきたい。

子育て支援施設「子どもテンノリオンハウスあおば」の一周年オープンハウスへ。モソコルの楽器「馬頭琴」の演奏が披



露された。初めて聞いたが、小さな子どもたちが、演奏が始まるたびに、タツと静かになり聴いているほどの素晴らしい演奏であった。目の前で聞くという贅沢をさせていただいた。高齢者向けのデンミリオンハウスは現在4ヶ所あり、その地域地域にあつた方式で、地域の皆さんが自助・公助・共助の精神を持って運営されているが、子どもデンミリオンハウスにおいても同じ精神で軌道にのってきたことを実感。

11月17日

寒い日でも冬を実感する。

01-23 吉祥寺の10周年記念パーティーへ。私  
が、議員になって2年目に、幼稚園でもない保育園でもない子育て施設としてオープン。名前をつける時に、あの頃「パールホール」とか「アルテ」等といった横文字の愛称をつけることが流行していた。分かりにくいのでこの施設は日本語で「言った」として、市長より「利用者者の年齢をそのままの01-23 吉祥寺とした」との答弁が印象に残っている。また、平成4年度の決算審議において、「修理費が、1年目にしてはずいぶんかかって

いるが、なぜか」と質問したところ、「一寸した事故があり改修をした」との答弁があり、議員が知らなかつた事故が議会で問題になり、私もびつくりしたことがある。私には思い出深い施設である。

この後、御殿山通りの「道づくり研究会」へ。三鷹駅南口の玉川上水沿い、武蔵野市側の道の整備が決まりワークショップ方式の第一回目の研究会であった。この道路整備は、近隣の要望があり、私も平成6年ごろから推進を強く役所に働きかけていたので大変嬉しい会合であった。玉川上水を生かした、武蔵野らしい快適で安全な道を進めてもらいたい。



整備が待たれる御殿山通り

11月24日

朝から、冷たい雨。青少協の恒例の市内一斉美化掃除活動は中止。

西久保「ミセン」で西久保一丁目の新たな交通規制についての話し合い。様々

な意見が出る。初めてお会いする方もずいぶんおられた。住民の皆さんがそれぞれ立場から意見を述べ、街を皆さんが創り上げていっていることを感じる。規制については再度警察に意見を持って行き、協議することになった。丁寧に進めて行きたいと会長とも話す。

午後、文化会館の第37回PTAコーラスのつどいへ。毎年聞きに行っているが、「何日は、近くの五小、五中のPTAの皆さんが頻繁に最後の仕上げの練習をしているのを知っているだけに、聞き終わりホッとした。レハルも高く安心して聞けた。お疲れ様でした。

文化会館の展示室でやっている武蔵野美術家展をのぞく。知っている方の作品もあり楽しむ。

12月10日

昨日の雪が残っている中、役所へ。私の所属する文教委員会とある。補正予算で、「学校教育のあり方検討委員会」の予算がついた。身体、言語、自然をキーワードにこれからの学校教育をどのようにしていくのか。おもしろい委員会になりそう

である。また、市内小中学校間の情報ネットワークを構築する設備買入れの議案では、少なくとも小学校高学年までは、もつと実物に触ったり、つかんだり、抱いたりするような原体験が必要であり、バーチャルの世界は自己が出来てから入っていけば充分だと思つう。子どもたちのパソコンの利用に際しては、しっかりとそのよき捉えをほしいと要望した。

12月18日

平成14年度第4回定例議会最終日。陳受14号「吉祥寺西公園のトイレ設置に関する陳情」に質疑が集中する。私もこの採択の仕方には納得がいかないの、質問をすると同時に討論を行った。私は、市民の権利である陳情を否定するものではないが、この公園の計画は三年前からきめ細かく市民参加で計画してきて、トイレは設置しないという結論を出し、工事が始まっているもので、この間に市民参加のチャンスがありながら何も参加せず、「広場を考える会」がいきなりこのような陳情を出してきたことに驚く。委員(会運営)についても、審議が充分にされておらず、継続を主張する委員が半数いる中、委員長採

決で決めるやり方に抗議すると同時に、今までの市民参加方式で積み上げてきたものはなんだったのかと思わざるを得ない。

議会が終わったあと、市長との打ち合わせの後、知的障害者の親の会「むらさき育成会」の親子のファミレスへ参加。

12月30日

昨日と比べると幾分寒さが和らいだようだ。消防団第5分団(中町、北町地区担当)と第6分団(西久保、緑町地区担当)へ恒例の陣中見舞い。12月26日から毎晩交代で歳末警戒に当たってくださる消防団の皆様さんに感謝。私も議会で、消防団の活動を市民の皆さんにもっと知ってもらおうように広報をすべしと何回も意見を言ってきました。そのことが、最近全戸に配られる「消防団かわら版」になったのかなと思つう。

2003年1月25日

朝から、三井マンション反対の会の打ち合わせ。午後、公会堂で「家族とは何か」のシンポジウムへ。希薄になっている家族関係の原因やこれからのあり方につ

いての話で、男女雇用均等法や女性が自立していける社会の変化など働く女性の立場からの率直な意見が出た。少子高齢社会の進む中で、「家族のあり方」を中心に男と女の役割等々内容の深いシンポジウムであった。

1月29日

リーフレットの発送作業。多くの方に集まっていたので、早く終わりました。ありがとうございました。作業中にレモンキャブに関する相談。倒れて手を骨折してしまい、病院に通うためにレモンキャブを使いたいとのこと。ところが、レモンキャブが好評のため中々予約が取れないらしい。レモンキャブを運行している知り合いの方に相談したところ、病院の予約が同じくらいに時間集中するためにとつても予約ができないらしい事がわかり、知り合いのタクシ―会社を紹介し、レモンキャブと併用をすすめる。レモンキャブが、市民の足として定着していることを実感すると共に、武蔵野から始まったレモンキャブのシステムをさらに使いやすくするために考えなくてははいけないと思つう。

# 山下議員は、地域の力で“新しい仕組みづくり”を前向きに取り組んでいる市民と共に、運動していきます。

—今日は山下議員がホームページ上でも「最近街づくりに対する住民参加が変わったと感じている」と書かれていましたが、どのように変わったと見ているのかお聞きしたいと思います。

山下議員 いくつか実例を挙げてみますが、最初に三鷹駅北口の三鷹通り（中央通り）のフラワーポットの設置と管理システムについてです。

三鷹通り（都道）は、近年カラー舗装されました。その時、通り沿いの商店会の皆さんから、「掃除はもちろんだが、もっと人々の憩いになるような通りにしたい」と相談がありました。そこで、皆さんや市とも協議を重ね、フラワーポットを市で設置し、水遣りや苗の植え替えなど日常の維持管理は地元の中央通西祥会（村上哲也会長）でとの協定を結びました。水遣りはフラワーポットの置かれた前の方々をお願いし、10人以上の方で手入れをするチームを組んでバックアップしています。皆さんの協力により元気に花が育っております。（東京都「道の里親制度」に認定）

—次に、先日も新聞で紹介されていました西久保一丁目町会（井上敏雄会長）の交通規制指導員の仕組みについてですが、

山下議員 まだ、試行段階ですが、今まで私が取り組んできた中でも、非常に面白い仕組みです。以前から、西久保一丁目の住宅地に朝の時間規制（7時～9時）を無視して進入する車が多く、子どもたちや高齢者の皆さんも大変危ない思いをし、取締りの要望が寄せられていました。しかし警察や市も、この地区だけ特別に継続して取り締まることは難しい状況でした。

ところが、今年の6月頃から、30代の若いご夫婦が、規制の入りに連日立ち、進入する車を排除する行動に出た結果、ほとんど進入がなくなりましたが、このご夫妻だけで今後

も続けていくのにも限界があり、西久保一丁目町会の役員会で話したところ、全員賛成で、「シルバー人材センター」の皆さんにお願いしようということになり8月1日から試験的に実施しています。（朝日新聞8/14朝刊参照）

—費用はどうしているのですか。

山下議員 集団ごみ回収の交付金を当てています。

—リサイクル・安全・高齢者福祉と循環しているわけですね。ほかにはどうですか。

山下議員 市民文化会館や、図書館の周りにある武蔵野中央会（山田俊彦会長）という商店会もユニークな試みを始めました。

クリスマスのシーズンに市民文化会館のコンサートに来る多くの人たちのために何か出来ないかと、各戸に自分たちの費用で、イルミネーションをつける運動を始めました。昨年は約半分の会員が参加して評判が良かったのですが、今年は参加会員の増加はもちろん、市民文化会館、図書館にも参加してほしいですね。

—様々な地域で、様々な試みが

行われているのですね。

山下議員 そうですね。共通しているのは、地域の皆さんが、自分たちの力で地域独特のユニークな仕組みを作り、それを行政が後からバックアップしている点です。今までのような行政に言われたからするとか、行政に何でも任せるといっているのではなく、本当の意味での住民自治が行われつつあると感じております。私も議員として、そのようなシステムを作り出す喜びを感じ、これからもお手伝いをしていきたいと思っております。

—最後に、6月から、『新しいカラス対策』を試みているとか。

山下議員 はい。約3ヶ月たちましたが、カラスに1回も襲われておりません。

図のようなものを桜堤のK氏に作っていただきました。このポイントは、カラスは、ゴミをあさる時、足を地面につけて引っ張りま

す。そこで、その状況にさせないようにAの部分

をある程度高くして地面につけていれば、カラスは足を地面につけて引っ張れず荒ら

されないということです。この話をしておりましたら、他にもユニークなカラス対策をとっている方が色々いらっしゃるのをお聞きいたしましたので、市も、「からす対策コンテスト」でもすれば良いのにとおもいますね。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後に、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

図のようなものを桜堤のK氏に作っていただきました。このポイントは、カラスは、ゴミをあさる時、足を地面につけて引っ張りま

す。そこで、その状況にさせないようにAの部分

をある程度高くして地面につけていれば、カラスは足を地面につけて引っ張れず荒ら

されないということです。この話をしておりましたら、他にもユニークなカラス対策をとっている方が色々いらっしゃるのをお聞きいたしましたので、市も、「からす対策コンテスト」でもすれば良いのにとおもいますね。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。

—最後は、カラス対策まで身近な市民の中での山下議員の動きが良く分かりました。市民の視点を忘れずに頑張ってください。



# 行政 評価

## 未来の市政運営のあり方——バランスシートから行政評価システム導入へ

——今期、かねてより山下議員が主張していた「企業会計方式、バランスシートを役所の決算に導入せよ」という主張が通つてから、既に4回目のバランスシートが発表されました。

今後の自治体経営のあり方について、どのようなことが大切とお考えでしょうか。

山下議員 現在、地方分権が進められ、その地域地域での需要を的確に反映させるような政策が求められています。また、環境問題、少子高齢、安全・危機管理等々新たな行政需要が山積し、しかも、経済の低成長傾向はこれからも続き、厳しい財政運営が求められます。今後は、市民要望が強い事業・施策でも取捨選択の厳格化が避けられなくなると思います。

この中で大切なことは、取捨選択する事業の評価(得られる効果、コストなど)が数値化

明確化され、市民にわかりやすく情報を提供されることです。

私はバランスシートもその第一歩と考え、強く要望してきました。

——山下議員は以前から行政評価システムの導入も強く主張していましたね。

山下議員 6月に、武蔵野市の行政評価システムについての報告書が出されました。

まず、施策や事業を進めるに当たり、事前にその目的、目標値の設定、費用対効果等の計画を立て(plan)、その上で目的や目標値の達成に向けた事業執行(Do)、次に業績の測定、達成度の評価(Check)、改善(Action)をします。今回の行政評価システムは、二行つた事業が市民にどのくらい役に立ったか、「満足を与えているのか」等を把握するシステムです。従来と違うのは、この

施策や事業が果たして武蔵野市にとって必用か否かがはつきりし、民間のように事務効率、コスト意識等が職員の間で向上する点だと思えます。また、政策形成過程からの市民参加の促進や事業の必要性や妥当性が、より明確に評価できることとなります。さらに、より市民の立場に立ったものにするには、行政内部だけではなく、第三者によつて常に評価される外部監査制度により、行政の信頼性、事業の信頼性をより高める必要もあるでしょう。

また、これまで企業会計、行政評価システムの導入など今後の自治体経営のあり方について述べてまいりました。が、実際の行政実務を行う職員の間には、実際の行政実務を行なう職員の間には、仕事の達成感が得られ、本人の努力、成果に対し公平な評価がされるシステムや給与体系を導入する必要もあると思えます。

# 市役所 活性化

第22号 2000年(平成12年)2月発行

## モチベーションを高め、組織活性化のために給与体系の改善を一般質問

平成11年第四回定例議会で山下議員は、「これからの給与体系等について」一般質問を行なった。

本市では、昭和58年4月の土屋市長就任以来、様々な行財政改革を断行してきました。

最近では、平成8年度から5ヶ年間の職員削減計画を立て、平成11年度までに107名の職員定数の削減をしましたが、厳しい社会情勢を勘案し、引き続き新職員定数適正化計画(平成12年～16年)を策定し、新たに179名の職員定数を削減する計画を立てるなど、現在も行財政改革に真剣に取り組んでおります。

一方、東京都では、全職員に対し3年間で本給4%、ボーナス10%の大幅な給与カットを打ち出したほか、成績率という考えを導入して部課長の評価をし、ボーナスに差をつけています。

そこで今回は、武蔵野市における職員給与体系の改革について質問をしました。

山下議員 職員のやる気を引き出し、組織の活性化を図るために大切なことは、仕事の達成感が得られ、本人の努力、成果に対し公平な評価がされるシステムが出来ていることだと考えるが、

(1)本市の給与体系は55歳以上になるとほとんどの職員が係長職の給与表に移行し、退職時は同じ給与である、どのように考えているのか。

(2)57歳の部長と一般職(係長職以下)の給与差は21,200円と少な過ぎる。民間では能力給、成果主義の給与体系が広く導入されている中、本市では成績率の導入を含めどのように給与体系を改善しようとしているのか。

(3)給与体系だけでなく、市内出張や近隣市に行くだけで出張手当が支給される日額旅費制度についても見直しが必要だ。管内外の旅費については即刻廃止す

べきと思うがどうか

土屋市長 (1)いつまでも続けていく制度ではないと考える。

(2)評価制度等難しい面もあるが、職務職階級の原則や官民比較、成績率の導入も含め検討したい。

(3)日額旅費などは適切と考えていない。特殊勤務手当の見直しなどの推移を見て考えたい。

その他、美術館建設について、建設場所の選定等の質問をしました。

山下議員は、今までも企業会計、行政評価システムの導入など今後の自治体経営のあり方について質問をしてまいりましたが、組織の活性化とモチベーションの高揚という視点から、今回は基本となる給与体系について鋭く指摘し質問を終わりました。



## 21世紀を生き抜く子どもたちへ——武蔵野市独自の学校週五日制対策

山下議員は保護者の気持ちを代弁し、「学校週五日制における諸問題」との題で一般質問をしました。——さて初めに市の学校完全週五日制対応についていくつか挙げていただけますか。

山下議員 興味のある分野を集中的学びたいとか、学校教育では実施することが難しい体験をしたいという子どもたちのための「土曜学校」を、「ひらめく かんじる かんがえる 楽しい 学び舎 土曜学校」として昨年から実施してきました。私も今年の2月に、青梅市二俣尾の武蔵野市民の森で実施された「森林体験講座」冬編に参加してきました。そこでは、森林の探検で猪の掘った穴や、狐の糞を見つけたり、斧を使い、木を切って火熾したりと日ごろ体験できない作業に子どもたちが喜んで取り組んでいました。その他、算数の好きな生徒には、じつくりと、

解く喜び、考える喜びを学ばせる「ピタゴラスクラブ」や、日本語のことはの美しさを楽しみながら体験する「朗読ことばあそび倶楽部」、「雅楽クラブ」、「アニマルファーム」、各種のスポーツクラブなど盛りだくさんの内容になりそうです。

また、市内在住の小学生を対象として、安全な遊び場の確保と仲間づくりのため、毎週土曜日にすべての小学校で「小学校教室開放」が今までの校庭開放や、図書室開放などといった仕組みと連動して行われます。

——次に「地域子ども館」のことが話題になっておりますが。

山下議員 土曜日の教室開放をさらに普段の放課後まで広げ、私立や国立の小学校に行っている子ども、障害を持つている子どもも含めたすべての子どもたちを受け入れる全児童対策としての試みです。仲間づくりや異年齢の子

どもたちのかかわりなどにより、自主性や創造性、社会性を育もうとするねらいです。スタッフも、保護者を含めた地域の方や、高校生等を活用しているところとしていきます。

——ところで、一般質問にもありましたが、「学力低下」という問題についてはいかがですか。

山下議員 授業数の減少による影響がどの程度出るかわかりませんが、市としては学力低下を招かないように数年前から複数教員による協力指導(チーム・ティーチング)や習熟度別指導体制など、基礎的な学力を責任を持って教えるという体制をとって臨んでいます。これからの時代に必要な、真の学力とは何か、子どもにとって何が大切なのかという点をしっかりと考え、取り組んでいくことが大事だと思います。

# 環境 対策

第23号 2000年(平成12年)8月発行

## ごみ収集変更万全の体制で臨め

山下議員は、新しいごみ収集体制に万全の体制で望むことと環境教育について、一般質問をした。

山下 ごみ収集の変更により職員体制はどう変わるのか。また、経費についてはどうか。

土屋市長 現行90名が83名体制になる。経費は資源収集の委託の増加との差し引きで1000万円増となる。

山下 混乱が予測されるがバックアップ体制をどうとるのか。

土屋市長 2、3週間は収集現場の調査班を強化してよく指導したい。

山下 ベットボトルやその他プラスチックの収集目標達成率を公表し、市民とともに減量を進める姿勢が大事だと思うがどうか。

土屋市長 今後も考えて行きたい。

山下 今回の収集体制の変更を機に、新たな環境教育を考えてほしい。

教育長 今後そのように取り組んでいきたい。

★ごみの出し方が変わって二ヶ月、まだ迷っていませんか資源の分別★  
ごみ収集体制の変更から約二ヶ月、今日

は山下議員にその状況とごみ分別方法についてお聞きしました。

——当初、収集の遅れ等の混乱がありました。したが、現在の様子はいかがですか。

山下議員 当初、収集が遅れたのは、プラスチック容器やベットボトルが予想以上に大量に出されたことが原因で、収集体制の強化などによって改善されました。

——出し方について「緊急報告」が出され、市報でもPRされましたが

山下議員 汚れたプラスチック容器が多くだされたため、市では、緊急のPRとして、きれいなものでなければ資源化できないこと、資源ごみは洗って出すこと、汚れたものは不燃ごみに入れること等をお願いするパンフレットを配りました。

——その辺の事前のPRはあまりなかったように思うのですが。

山下議員 市の事前PRは、収集曜日的大幅変更とプラスチック容器の説明に主力が置かれていました。説明不足について反省し、すぐにこのようなPRが始めた点は評価したいと思います。私の一般質問の指摘がいかされたのかなと思います。

——それにしても、プラスチック容器の分別は難しいですよ

山下議員 種類が多いことと、「容器包装リサイクル法」で対象物を細かく規定していることが、わかりにくくしている原因です。市では、それをわかりやすくしようと、対象をパンフレットに載っているものに限定しています。

——汚れはなぜ落とさなければならぬのですか

山下議員 資源として集められるプラスチック容器は、再生プラスチックの原料として使われます。原料になるための一つの条件が、汚れがついていないことです。汚れが落とせないものは、今までどおり不燃ごみの日に出してください。

——資源化といっても大変なんですね。

山下議員 そうですね。日の出町の二ツ塚処分場への埋め立てを減らし、資源化を進めるには、ひとりひとりが意識をもつて、手間をかけないと実現できません。

また、資源化も大事ですが、それ以前に使い捨て容器は極力使わず、ごみを出さないライフスタイルを考えていくことが重要だと思います。

# 福祉 対策

第22号 2000年(平成12年)2月発行

## 武蔵野市は介護保険導入後もサービス水準を低下させません

いよいよ本年4月から介護保険が導入されます。山下議員に本市の介護保険制度の概略についてお聞きしました。介護保険の基本的な考え方を改めてお聞きします。

**山下議員** 従来の福祉施策は、各自自治体の、限られた施設、財源(予算)、人材の中で行なう措置制度でしたが、介護保険は必要なサービスを利用者自らが選んで受ける保険制度になります。これが一番大きな違いです。

——なるほど。今までとは明らかに違う福祉になるのですね。

**山下議員** 住民は、必要なサービスを受けるために保険料を支払うことになり、行政は、どこまでサービスを提供できるかを検討し、保険料を決めなければなりません。

——その保険料ですが、本市ではどうなるのですか。

**山下議員** 最終的には、3月議会で決ま

りますが、第1号被保険者(65歳以上の方)は3、300円を基準として収入に応じて、保険料が決まります。第2号被保険者(40〜64歳)はそれぞれの加入する保険によって決まっています。

——要介護度の認定の公平性が大事と聞いているのですが、本市ではどのような行われるのでしょうか。

**山下議員** 公平性、確実性を保つため、本市では、公的機関の職員が介護認定調査をすべて行ない、調査員が、コンピュータによる1次審査の誤差を修正するため、2次審査の段階でより実態に近づける作業を行ないます。

また、「サービス相談専門員」を置き、認定調査やサービスへの不服に対し、解決可能なものはそこで解決するとともに、民間施設や、介護保険全般のチェックもここで行ないます。

さらに、**通常自己負担は10%ですが、本市では所得に関係なく3年間にわたり市で7%を負担し**

**自己負担は3%で済むように予定しています。**

——福祉の総合条例もこの3月に出されることですが、介護保険条例との関係はどのようになるのでしょうか。

**山下議員** 「福祉総合条例」が全体を包括し、その中に、高齢者対策の一部として介護保険が位置付けられます。先進的な高齢者福祉を実践してきた本市では、介護保険だけでは逆にサービスの低下をきたす場合があるので、総合条例でカバーしようとしております。今話題のテンミリオンハウスなどはこの条例の中に含まれてきます。

——今後の福祉の考え方についてはどのようにお考えですか。

**山下議員** いわゆる自助・共助・公助の共助の部分をごのように構築していくかが求められてくると思います。テンミリオンハウスなどは新たな取り組みといえるでしょう。

## 第三者から見た武蔵野市政の評価①

### 行政サービス度 全国1位

日本経済新聞社が2年に一度実施している調査。全国698都市(東京23区含む)を対象として、平成14年8月に「公共料金」「高齢化対策」「少子化対策」「教育」「住宅環境・インフラ」など30項目にわたる行政の各種サービスを総合的に評価した結果、武蔵野市のサービス度は全国1位となりました。

### 暮らし心地アンケート

#### 首都圏41市区中総合1位

サンケイリビング社が平成13年10月に首都圏41市区を対象として20項目で調査した結果、総合評価で1位となりました。

- ◎文化的施設 1位
- ◎スポーツ施設 1位
- ◎公園緑地2位(1位三鷹市)
- ◎育児施設・サービス1位
- ◎交通利便性3位  
(1位目黒区・2位杉並区)

### 市に愛着を感じている人の割合

#### 多摩30市町村中1位

(財)東京市町村自治調査会が、平成13年2月に多摩の住民を対象として意識調査をした結果、「地域への愛着を感じている」「今後も現在の市に住み続けたい」住民の割合で、それぞれ1位となりました。

平成14年8月

#### サービス度ランキング

総合評価  
(150点満点)

順位	自治体名	都道府県	得点
1	武蔵野市	東京都	94.0
2	三鷹市	東京都	93.0
3	羽村市	東京都	91.0
3	刈谷市	愛知県	91.0
5	千代田市	東京都	90.5
6	中央区	東京都	89.5
6	福生市	東京都	89.5
8	文京区	東京都	89.0
9	世田谷区	東京都	88.0
9	調布市	東京都	88.0
9	調布市	東京都	88.0
13	日野市	東京都	87.5
13	北谷町	福岡県	87.5
15	深谷市	埼玉県	87.0
15	西谷町	東京都	87.0
15	西谷町	東京都	87.0

総合点(10点満点) 順位市区名

1	武蔵野市	7.7
2	三鷹市	7.5
2	目黒区	7.5
5	都筑区(横浜)	7.4
6	世田谷区	7.3
6	国立市	7.3
6	青葉区(横浜)	7.3
9	杉並区	7.2
9	大田区	7.2
9	相模原市	7.2
12	金沢区(横浜)	7.1
13	津北区(横浜)	7.0
13	練馬区	7.0

三鷹市2位は昨年と変わらず、杉並は3位から9位に  
アンケートでは、生  
活に身近な20項目の  
市の満足度を評価し  
てもらいました。結果  
は左表の通り。  
今年「暮らし心地」  
全体の満足度を総合  
点として、昨年、幾  
分下がりましたが、  
武蔵野市が1位、目  
黒区が2位、杉並区  
が3位と、順位も高  
く維持されています。

リビングむさしの平成14年2月

多摩政策アンケート平成13年8月

#### 自分のすんでいる地域への愛着(武蔵野市)

- ・感じている 87.8%
- ・感じていない 2.2%
- ・どちらともいえない 3.3%
- ・無回答 6.7%

#### 居住意向(武蔵野市)

- ・住んでいたいと思う 88.9%
- ・他へ移りたいと思う 5.6%
- ・どちらともいえない 5.6%
- ・無回答 -

## 第三者から見た武蔵野市政の評価②

ホームページから見た  
全国698都市(23区含む)

### 情報公開度ランキング2位(1位横須賀市)

東洋経済新報社が、平成14年12月に全国698都市のホームページについて、説明責任、行財政改革、市民参加という視点から20項目について評価・判定した結果、横須賀市について全国2位となりました。

#### 情報公開度調査の概要

NO.	評価項目
1	予算概要(財政概要)
2	歳出歳入の詳細(予算の目的別分類表など)
3	決算(過去の当初予算は除く)
4	政策評価(行政評価の結果)
5	議会議事録
6	パブリックコメント(ある特定の事業に対する意見募集)
7	パブリックコメントへの回答(住民意見に対する市の考え方)
8	入札結果(業者名)
9	入札金額(受注金額)
10	市長の交際費
11	記者会見・記者発表・報告書等(市長関連のみ)
12	市の概要(要覧、紹介など)
13	統計データ(過去の時系列データ)
14	くらしの情報(休日診療機関、引っ越し手続き、ゴミ収集など)
15	条例・例規集
16	入札公告
17	検索機能
18	メールでの問い合わせ対応
19	新着情報のメール配信(メールマガジンを含む)
20	チャット機能(電子会議室、フォーラム、みんなの広場、掲示板など)

【調査対象】全国の政令指定都市、市、東京23区

【調査方法】上記ホームページより20の評価項目についてその有無を調査・判定

【調査期間】2002年12月3日～12日

【判定基準】各項目の詳細な判定基準は以下のとおり。4:原則として数値等で明確に評価しているもののみ(項目と総合評価(廃止、見直し、継続など)のみ掲載のものは除く)。5:項目として議事録の閲覧・検索等があるもの。キーワード検索で単発で出てくるものは除く。議事録概要、項目のみ市議会便りなどは含まない。6:アンケートは含まない。12:市の概要の中身が統計(人口その他の情報)の場合があるが、その場合は12概要と13統計のどちらもあるとする。13:人口のみのものは含まない。15:項目として条例・例規の閲覧・検索等があるもののみ。キーワード検索で単発で出てくるものは除く。16:「工事発注見直し」「工事発注予定表」も含む。17:トップ頁にアイコンや項目のみも含む。限定したページ内での検索機能は含めない。18:メールアドレスの記載のみも含む。「このホームページについての問い合わせ・ご意見は」とホームページに限定している場合は含めない。19:市政全般に関するもののみ。防災、高齢者催事など範囲の狭いものは含めない。20:電子会議室はテーマが決まっているものしかない場合も、リアルタイムで書き込めるシステムや期間限定でオープンするものも含む。市政と直接関係ないサイクル、サークル、募集等は含めない。その他、工事中、リンク切れは「なし」、情報が古くてもある場合は「あり」とみなす。

【採点基準】上記1～10は行政による「説明責任」の観点から6点を配分。残り11～20は4点。偏差値=(各項目の合計点-総平均)/標準偏差×10+50

# 共生の時代へ

## 地方自治が日本を創る

信頼・責任・行動



動いている、生きている——武蔵野市政  
土屋正忠市長と……

私は、これからも市民の皆様とともに、武蔵野市の特性を生かした施策を創り上げるために行動いたします。そのことが、明日の日本を創る土台となると信じます。

武蔵野市は、平成14年度の日本経済新聞の調査で、少子化対策、インフラ・住宅整備等の充実により、全国自治体の中でサービス度No.1に輝くことができました。

一方では、厳しい財政運営が強いられる中、行政評価システムの導入などにより、今まで以上に効率性、透明性、アカウンタビリティを高めるとともに、市民の皆様によりわかりやすい情報を提供することが求められています。

さらに、身近な地方自治体だからこそできる、ムーブス、セカンドスクール、子育て施設0123などのような、これからの時代の市民ニーズをしっかりと捉えた、武蔵野市らしい大胆な施策展開が求められています。

### ●主な議会活動

H 3 武蔵野市議会議員初当選 市民クラブに所属

H 3 〃 6 自転車対策審議会委員

H 5 第三期基本構想審査特別委員会副委員長

H 6 議会運営委員会副委員長

H 7 市議会議員選挙当選

H 7 〃 8 議会選出監査委員

H 9 総務委員会委員長・武蔵野三鷹地区保健衛生

組合監査委員

H 10 武蔵野三鷹地区保健衛生組合監査委員

H 11 市議会議員選挙当選 決算特別委員会委員長・

武蔵野三鷹地区保健衛生組合議長

H 12 厚生委員会委員長・武蔵野三鷹地区保健衛生

組合議長

H 13 建設委員会委員長・武蔵野三鷹地区保健衛生

組合議長

### 現在

・市議会市民クラブ代表

・文教委員会

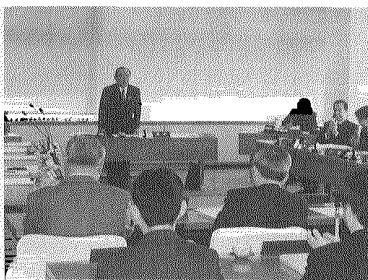
・議会運営委員会副委員長

・武蔵野三鷹地区保健衛生

組合議長

・国民健康保険運営協議会

委員他



保健衛生組合の議長として最後の  
議会であいさつ

# 山下 倫一(やました・ともかず)私の政策

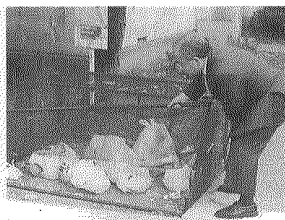
## 自治体経営の 全国モデルへ

議員定数削減／行政評価システムの確立／職員の目標管理制度の実施から成果主義人事制度の導入／外部機関による市役所業務の点検／外部監査制度の導入／インターネットを利用した行政サービスの拡大

「行政評価システム」の導入、計画段階からの目標管理の仕組みづくり、アカウントビリティ(説明責任)の徹底など、透明性を高めた行財政改革を推進します。市民にわかりやすい情報を提供し、効率的な市政運営を目指します。

## 地域からつくる 生活安全都市

街の安全対策／三鷹駅、吉祥寺駅に下りエスカレーター、エレベーターの早期実現／三鷹～立川間の連続立体交差化事業と武蔵野街づくりの促進／農水省倉庫跡地に図書館の早期完成／路線商店会の活動支援／ムーブスネットワークの拡大／マンション老朽化対策支援／玉川上水沿いの遊歩道の整備



ガラス対策の調査に  
桜堤付近にて

防災・環境浄化・福祉を考慮した、快適で人にやさしく、安心して暮らせる街づくり、コミュニティづくりを目指します。新しい時代に対応した商工業活動、市民の多様な文化活動等を支援し、活力ある地域社会を実現します。

## 知的で活力あ る高齢社会を

高齢者の健康づくり支援／武蔵野地域自由大学と老壮大学の連携と充実／高齢者の就業機会の拡充／在宅介護支援策のさらなる充実／見守りネットワークの推進／障害者・高齢者等の小規模グループホーム設置

進んだ福祉の街・武蔵野市の独自サービスを充実し、自助・公助・共助の仕組みづくりをさらに進めます。また、高齢者の就労やスポーツ、文化・芸術活動をしっかり支え、いつまでも豊かで安心して暮らせる街を目指します。

## 未来を切りひら く子どもたち

セカンドスクールのさらなる充実／土曜学校の充実／青少年育成活動の拠点の設置と地域リーダーの養成／未就学児の体験学習／「0123」を西部地区に／地域子ども館「あそべえ」の拡大と整備／定曜日保育、緊急保育などの実施  
武蔵野市で大胆な独自のカリキュラムをつくり、好奇心・創造力・情熱・意欲を持った子どもたちを、学校・地域・家庭との連携で育てます。多様な保育ニーズに応じて、働くお母さん方を応援し、子育て支援を充実させます。



いつも子どもたちとともに  
川上村ジャンボリーにて

## おいしい水・きれいな 環境・健康に暮らせる街

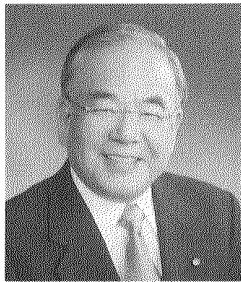
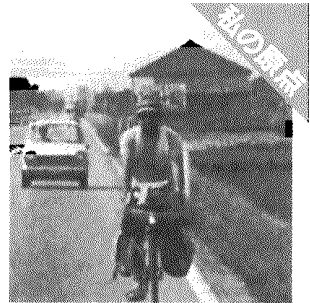
浄水および深井戸の機能と監視体制の強化／雨水の有効利用促進／緑のトラスト制度の設置／エコセメント事業の推進／石綿管・古い鑄鉄管の取替え促進／漏水時対応等への民間活用／管網整備の促進／水道の現況診断アンケート調査に基づく新たな施策

水道事業に長年携わった経験を生かし、安全でおいしい水の供給やゴミの問題など、私たちが健康に暮らすために不可欠な生活環境を、地球的視野に立って守ります。また、緑被率30%を目指し、都市生活に憩いと潤いをもたらす、緑豊かな街を実現します。

- ・昭和23年 西久保生まれ
- ・武蔵野市立大野田小学校
- ・武蔵野市立第五中学校／同校同窓会会長
- ・都立立川高等学校卒業
- ・早稲田大学商学部卒業
- ・(株)日立製作所／山下設備工業(株)勤務
- 平成3年 市議会議員選挙初当選
- 平成7年 市議会議員選挙2回目当選
- 平成11年 市議会議員選挙3回目当選
- その間(社)武蔵野青年会議所行政改革特別委員長、副理事長、商店(会)連合会青年部推進委員長、武蔵野市緑化環境市民委員会委員等を歴任
- 現在
  - ・地方自治経営学会会員
  - ・NPO環境文明21会員／NPO萬葉学校会員
  - ・西久保一丁目町会役員／西久保「ミセン」相談役／中央通り西祥会特別相談役
  - ・武蔵野稲門会幹事／武蔵野紫芳会幹事
  - 趣味 読書、映画鑑賞、ウォーキング、民族音楽
  - 好きな作家 司馬遼太郎
- 最近読んだ本 衰亡の経済学(竹内靖雄)／引き裂かれる世界(S・ハンチントン)／司馬遼太郎対話選集／花のある暮らし(栗田勇)／人間はどこまで動物か(A・ポルトマン)

家族 妻

学生時代、鹿児島島の佐多岬から北海道の稚内まで、4200キロを自転車でも走り抜きました。昭和47年には、リュックひとつで船に乗り、ヨーロッパなど15カ国を旅し、悠久のガンジス川に葬られる方を見送る経験もしました。時は流れ、平成13年11月18日、夜のニュースで「しし座流星群」の出現であることを知り、深夜に清里へ急行、降るような流星の天体ショーに見とれました。好奇心と行動力、それは私の原点であり、私の活動の変わることはない原動力です。



3期12年の間、「市政レポート」や「ホームページ」で私の活動を皆様にご報告をしてまいりました。編集の方針は「議員山下倫一」の行動や発言が皆様に伝わるように心がけてまいりました。レポートを発行するに当たって、折込みや封入作業をボランティアで支えてくださいました皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

また、平成10年11月にはいち早く開設したホームページは12,000回の訪問者を数えるまでになりました。

3期目が終わるに当たり、「市政レポート」や「ホームページ」で報告した事をまとめ、議員活動を振り返ると共に次のステップを踏み出す意味でこの小冊子を作成いたしました。ご一読くだされば幸甚に存じます。

これからも「レポート」や「ホームページ」などを使い皆様に市政の情報をよりきめ細かくお伝えすると共に、皆様の声を伺う機会を作ってまいります。

発行 山下倫一後援会事務所

電話・FAX 0422(53)3085(自宅)  
0422(54)3330(事務所)